

とちぎの自然災害

～油断は禁物！～

自然災害が少ないと言われている本県ですが、本当に少ないのか見てみましょう。

まず、本県の山間部は大雨の降りやすい地域ですが、河川改修や土砂災害対策がなされるなど社会資本の整備が進められてきました。また、「関谷断層」などの活断層はあるものの比較的地盤が堅いことや、内陸県のため海洋型の地震では海岸地区に比べて揺れが少し小さくなることなどから、大きな災害は比較的起こりにくいと言えます。

本県の自然災害による過去10年間（平成9年～18年）の被害状況を年平均にしてみると、この期間には平成10年の那須豪雨の被害が含まれるため、崖くずれ被害か所数全国7位、被害総額全国17位となっていますが、そのほかは死傷者数全国46位、建物の被害件数全国42位、田畑の被害面積全国38位、道路・橋りょうの被害か所数全国42位であり、本県は、全国有数の自然災害が少ない地域であることが分かります。

このように本県は、自然災害が少ないことが統計からも確認されました。しかし、那須豪雨や今市地震（昭和24年12月）では大きな被害がありました。

いつ発生するのか分からないのが災害です。そのために災害に強い県土づくりとともに、万一の災害に、日ごろから油断せず備えることが大切です。“備えあれば憂いなし”です。

指 標 名		指標値	順位	全国
1	自然災害における平均死傷者数	4.9人	46位	49.0人
2	自然災害における平均被害建物棟数	533.6棟	42位	2,863.2棟
3	自然災害における平均被害田畑面積	60.31 ha	38位	791.58 ha
4	自然災害における平均被害道路・橋りょうか所数	123.7か所	42位	379.3か所
5	自然災害における平均崖くずれ被害か所数	94.3か所	7位	57.2か所
6	自然災害における平均被害総額	166億円	17位	152億円
7	自然災害における平均河川被害か所数	279.3か所	21位	297.1か所

※ 1～7 消防白書（消防庁）、平成9年～18年の10年間の平均値をとったもの
但し、4の平成18年は橋りょうのみで集計

図1 本県の自然災害における被害総額の推移（平成9～18年）

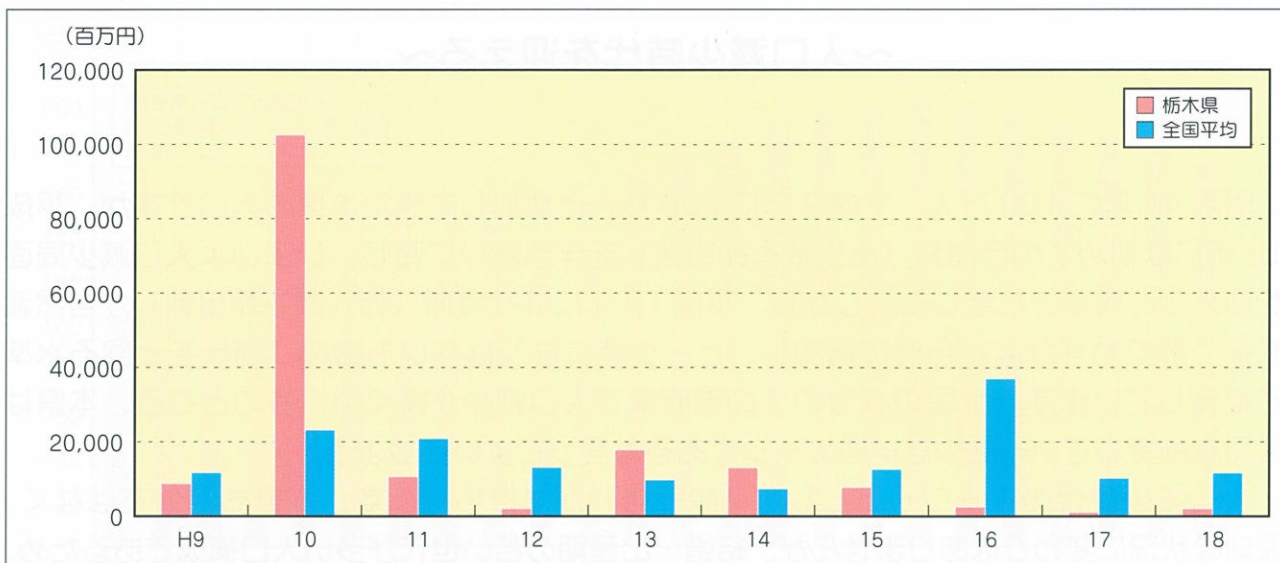
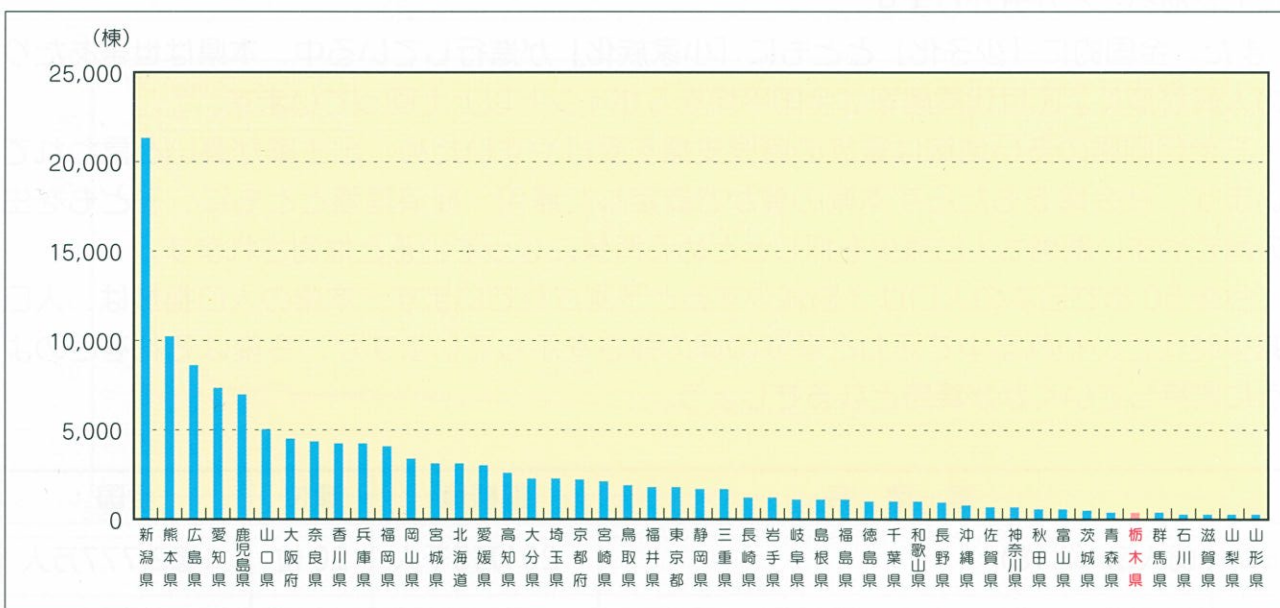


図2 自然災害による被害建物棟数（平成9～18年の平均）



※図1・2 消防白書（消防庁）

トピックス

－ “おやじ” ってなに？－

世の中の怖いものたとえに『地震・雷・火事・おやじ』という言葉があります。地震、雷、火事のあとに何故“おやじ”なのかな？と疑問に思ったことはありませんか？

実は、この“おやじ”というのは、いわゆる親父のことではなく、大山嵐（おおやまじ）という言葉が変化したものだという説があります。この説によると、大山嵐とは「台風」のことを指しており、台風であれば、地震、雷、火事と比べても、怖さにおいて全く引けをとらないと言えますね。